

10月の果実の見通し

令和元年9月30日現在
山形県東京事務所

品目	区分	主産地	入荷量(t)			単価(円/kg)			山形県産前年実績		販売見通し
			前年実績	前年比 見込 (%)	5カ年 平均	前年実績	前年比 見込	5カ年 平均	前年 入荷量 (t)	前年 占有率 (%)	
西洋なし類		山形 ほか	662	100%	684	348	平年並み	323	516	77.9%	長野産「ラ・フランス」が10月上旬から10月いっぱいまで、北海道産「オーロラ」「ブランディワイン」、山形産「レクラーク」「メロウリッチ」が10月上中旬まで販売され、10月下旬は山形産「ラ・フランス」の販売が中心となる。西洋なし類は全体的に生育順調だが、昨年と比べて若干小玉で推移している。
日本なし類		栃木 茨城 千葉 福島 ほか	3131	105%	3553	284	安い～平年並み	270	11.0	0.4%	「豊水」は生育遅れによって販売時期がずれ込み、10月上旬まで販売が続く。「あきづき」は終盤を迎える。10月は「新高」「南水」「にっこり」など大玉系品種が販売の中心となる。10月は気温も下がり、紅葉が進むに連れて荷動きも鈍く、出荷量も徐々に減少していく。
ぶどう類		長野 山梨 岡山 ほか	2261	95%	2668	1219	安い	971	89	3.9%	10月は後半戦に入り、「種なしピオーネ」「巨砲」「シャインマスカット」が販売の中心となる。本年は9月上旬の気温高のため着色遅れとなり、出荷量は減少傾向であった。10月上中旬は遅れた分が重なり出荷増と見込まれる。「シャインマスカット」は各産地とも増加傾向にあり、収穫量増にともない貯蔵量も前年より多くなる。
かき類		和歌山 奈良 福岡 ほか	9168	110%	9232	258	安い	238	246	2.7%	生育は順調で9月上旬から岐阜、和歌山産の出荷が始まり、下旬からは福岡、奈良産も始まる。10月は和歌山産「たねなし柿」中心の販売になり、奈良、新潟産と続く。甘柿は「早秋」から始まり「大秋」へと変わる。また、愛知で「次郎柿」「筆柿」、早場産地で「早生富有柿」の販売も始まり、柿の品種もバラエティに富み、販売に動きが出てくる。
りんご類		青森 長野 ほか	7146	105%	8151	298	平年並み	282	1047	14.7%	「つがる」は青森産が9月いっぱいほぼ終了。9月中旬から各種中生種が順次出始めた。9月上旬の気温高で荷動きが鈍いが、10月上旬には「シナノスイート」「早生ふじ」「秋映」等も潤沢に入荷し、売り場拡大が期待される。りんご類は全体的に生育順調。玉伸びは前年以上の見込みもあり、10月入荷量は前年並み～やや上回る。引き合いは前年並み～やや弱めの見通し。

引用資料:「東京都中央卸売市場における果実の品目別取扱実績」(青果物情報センター)、果実の入荷・市況見通しについて(東京青果株)

入荷量について:「0」はラウンドして1tに満たない入荷があったもの。「-」は本県のデータがないもの(入荷がないか、又は少なかったためにその他の産地に含まれる)